

# 彼方 「かなた」

校長通信  
H29.7.14  
Vol.10

【お願いです!】(一学期末保護者会資料)



きないように、生徒は生徒の中で磨かれ輝きます。

毎日の学校生活の中で互いに助け合い、支え合う場面が沢山見られました。取り返しのつかない失敗はさせられませんが、基本的には失敗しながら、それを乗り越え、多くを学ぶことでたくましくなり、人の気持ちがわかる地域人材となって未来に羽ばたいていくのです。ところが、最近は、大人が転ばぬ先の杖を突き過ぎるのが問題です。やる前から転んだときのことを考え、動き出せずにいる場面も少なくありません。どうせなら、転んだ後の起きあがり方を一緒に考える大人でありたいと思います。

もうひとつ大切なことは、同じ失敗を何度も繰り返さないということです。人間は、「習性になる」と昔から言われるほど環境に順応する生き物です。良い生活を続ければそれが当たり前になります。逆にダメなことを続けると生まれつきダメなことをす

る人間だったのではないかと本人も周りも思ってしまう。そうすると「どうせ自分なんか...」「そんなの絶対に無理...」というようなメンタルブロックが作られ、ますます自己肯定感が持てなくなり、ますます早いうちに行動改善しなければなりません。例えば、家庭学習をしないで困っている子に、「一方的に「勉強しなさい」と言ってもなかなかやみません。それより「どうやったら勉強するようになる?」と解決策を探り、できる時間を十分でも決めさせて、自分から取り組ませるようになると、まったくやらなかった子が少しはやるうとする姿が変わります。本校にはダメな生徒や悪い生徒は一人もいません。人間性ではなく、やっている行為がダメなだけです。だから行動を変えることに全力を尽くせば、その良さが引き出されます。口で言うのは簡単ですが、三日も続かないという生徒も少なからずいます。続くかどうかは本人の問題ですが、それを支える人間がその周りにいるかどうかでかなり変わります。三日坊主を四回続ければ、十五日のうち十二日間はできます。まずは一歩踏み出すことが、行動変容につながってきます。

そこで「お願い!」が三つあります。

一つ目は、「自分で決めさせる」ことです。人に言われて、動くのではなく、自分で考え、判断し、より良い行動が取れる生徒になって欲しいのです。決断することを任せて欲しいのです。せめて「よしなさい。」「何度言えば分るの?」ではなく、「よしなされる?」「よししてくれると嬉しいな。」に変えてもらえるだけでも違います。動きやすくなります。

二つ目は、「子どもの良さを認める」ことです。一緒にいる時間が長くなるとどうしても嫌なことが目に付いてしまいます。「よしやダメでしょ!」「どうしてするの?」という命令や詰問で相手を追い込み、コントロールしようとしたくなりますが、それより子どものいいところ、家族のいいところ、学校や担任、顧問の先生のいいところ等、いろいろないいところを家族で毎日20個、言葉にするだけで自己肯定感が高まってきます。ところが自己有用感の低い子、自信が持てずいつも下を向いている子が少なからずいます。一つでも多くのいいところを見る目を養ってあげたいと思います。

三つ目のお願いは、「学校との連携」です。もし保護者が担任や顧問、学校の悪口を子どもと一緒に家で話したり、職員室で保護者の文句を言ったりしていたのでは、連携どころの話ではありませぬ。保護者が信頼していない学校に毎日通い、学校が不自信を持っていない家庭に毎日帰っていく、これでは子どもが可哀想過ぎます。互いの不自信は、子ども達にとって百害あって一利なしです。修学旅行や林間学校、校外学習で頑張っていた姿、授業に真剣に取り組む姿、息を合わせて歌っている姿、部活動で汗を流して頑張っている姿、友達と楽しそうに話している姿、どの姿も、できるようにになりたい、期待に応えたいと思っ頑張っている姿です。こういう姿を増やすには、大人が仲良くやっていくことが一番です。そうすれば間違いなく子どもたちは、もっともっと明るく元気になります。一学期のご理解・ご協力に感謝しつつ、更なるお願いでした。